

災害史を研究し続けること、 史料を保全し続けること

—新潟地震 50 年・中越地震 10 年—

主催 新潟大学災害・復興科学研究所 危機管理・災害復興分野
共催 科学研究費基盤研究 (S)「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて」研究グループ、
新潟大学人文学部地域文化連携センター、新潟歴史資料救済ネットワーク、新潟史学会

日時 2014 年 12 月 6 日 (土) 13 時 30 分～17 時 50 分 (受付開始 13 時)

会場 新潟大学総合教育研究棟 1F 大会議室

第一部 史料保全と被災地 13:30~14:40

吉原大志 (阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター)

阪神・淡路大震災 震災資料の 20 年

山崎麻里子 (長岡震災アーカイブセンターきおくみらい)

中越メモリアル回廊の取り組み—地域と共に残し・伝える—

五十嵐聡江 (葛飾区郷土と天文の博物館)

被災者に寄り添う復興支援と文化遺産の活用

—岩手県山田町山田史談会との交流から考える—

第二部 災害史研究の意義 15:00~16:00

吉田律人 (横浜開港資料館)

関東大震災 90 周年の成果と課題—横浜市の博物館及び文書館の視点から—

中村 元 (新潟大学災害・復興科学研究所)

新潟地震から考える日本近現代史研究と災害史研究

田嶋悠佑 (新潟市歴史博物館)

新潟地震を研究すること—新潟地震展を担当して—

パネルディスカッション 16:20~17:50

司会：矢田俊文 (新潟大学災害・復興科学研究所)、報告者

どなたでもご参加いただけます
(申し込み不要)

問い合わせ先

矢田俊文 (新潟大学人文学部、新潟大学災害・復興科学研究所兼任)

〒950-2181 新潟市五十嵐 2 の町 8050 番地 新潟大学人文学部

TEL : 025-262-6542 MAIL : yata@human.niigata-u.ac.jp